

大学の中で大学図書館の組織を考える:8大学図書館の経験から

東北大学附属図書館総務課長
加藤 信哉

2009年1月15日

平成20年度国立大学図書館協会シンポジウム(東地区)

1

アウトライン

- 自己紹介
- 大学と大学図書館
- 今までに在職した(している)大学図書館での経験
- 今後の大学図書館組織のあり方
- 図書館職員として

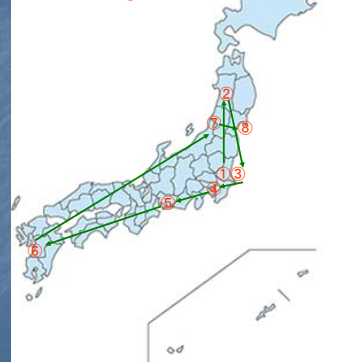
2

図書館歴

- 1976.4 筑波大学図書館部(入職)
- 1981.4 秋田大学附属図書館
- 1983.4 図書館情報大学図書館情報課
- 1992.4 東京大学附属図書館
- 1999.4 名古屋大学附属図書館
- 2002.4 熊本大学附属図書館
- 2004.4 山形大学附属図書館
- 2007.4 東北大学附属図書館

3

A Wandering Librarian?



4

大学と大学図書館

- 大学図書館は業務及びサービスを実質的に図書館職員が企画・実施する組織
 - 図書館の因数分解=図書を食う宜
- チェック・アンド・バランス
 - 運営組織(教員)
- 独立(孤立)
- 情報処理関連機関と連携・融合(Convergence)
- 大学改革・組織改革(法人化)

5

筑波大学(1976-1981)

- 係員(雑誌・参考調査) 5年
- 大規模大学(新構想大学)
 - 学系・学群
- 事務局図書館部(3館)
 - 附属図書館には館長のみ所属
- 集中管理
 - 中央図書館で予算・人事・施設を管理
 - 医学図書館・体芸図書館はサービスのみ
 - 全面開架
- 国立大学図書館の定期人事異動の端緒
 - 原則3年

6

秋田大学(1981-1983)

- 係員(閲覧・参考調査) 2年
- 小規模大学
 - 3学部(教育, 鉱山, 医学)
- 附属図書館事務部
 - 本館と医学分館
- 事務長制
 - 一般職(庶務・会計)のポスト
- 二次資料
 - CA, Gmelin, Beilstein

7

図書館情報大学(1983-1992)

- 係員(管理)・情報資料(係長) 9年
- 小規模大学(1学部1学科)
 - 教職員学生の顔が見える
- 事務局図書館情報課
- 大学図書館職員長期研修のお世話
- 図書館業務システムの開発(LIAISON)
 - 企業との共同開発
- 公開図書室
 - 一般市民・学生ボランティアとの対応

8

東京大学(1992-1999)

- 係長(閲覧・システム管理・相互利用) 7年
- 大規模大学(10学部)
- 附属図書館事務部(3課)
- 調整された分散主義
 - 50を超える部局図書館室
- 大型計算機センターとの図書館システム合同リプレイス
- ILL/DDIに関する日米ラウンド・テーブル

9

名古屋大学(1999-2002)

- 図書館専門員・課長補佐 3年
- 大規模大学(9学部)
- 附属図書館事務部(3課)
 - 中央図書館, 医学部分館
- 情報連携基盤センターの概算要求
 - 大型計算機センター
- 研究開発室の設置
 - 人事課
- 自己点検評価・外部評価

10

熊本大学(2002-2004)

- 情報サービス課長 2年
- 中規模大学(7学部)
- 附属図書館事務部(2課)
 - 既に学術情報部(仮称)への改組が決定
 - 中央館, 医学部分館, 薬学部分館
- 法人化の準備
- 学生広報誌への図書館記事の定期掲載
- 図書館の増改築の検討
- SERVQUAL
- 特色CP
 - IT環境を用いた自立学習支援システム

11

山形大学(2004-2007)

- 情報管理課長 3年
- 中規模大学(6学部)
 - 分散キャンパス(山形, 米沢, 鶴岡)
- 附属図書館事務部(2課)の学術情報部への改組(事務局)
 - 教育研究評議会への出席: 大学の運営が見える
- 全学事務組織改革検討WG
- 電子ジャーナル契約の電子オンリー化
- 「紅花の歴史文化館」
 - 博物館, 地域社会との連携
- ゆうキャンパスリポトリ

12

東北大学(2007ー)

- 総務課長 2年目
- 大規模大学(10学部)
- 附属図書館事務部(3課)
 - ー北青葉山分館, 医学分館, 工学分館, 農学分館
- 創立百周年記念行事
 - ー「東北大学の至宝」展, 「文豪・夏目漱石」展
- 3館構想及び事務一元化
- 理系新分館の建設

13

今後の大学図書館組織のあり方

- 集中と分散のダイナミズム
- 附属図書館パラダイムの終焉?
- 組織としての自己表現
- 取り込むか, 取り込まれるか
- 視野狭窄にならないポジションの確保
- 大学の教育・研究・社会貢献を支援する最適な形態の追求
- 学術情報基盤という位置づけ

14

集中と分散のダイナミズム

- 組織の集中と分散は永遠の課題
- 図書館長の位置づけ
- 組織と業務・サービス
- 人(スタッフ)の問題
- 管理や経済の効率と利用者の使いがって
- デジタル化とインターネット

15

附属図書館パラダイムの終焉?

- メディアセンター・情報センター
- 合同施設
- 情報基盤センター
- 大学改革
- 国立大学法人化

16

組織としての自己表現

- ミッション・ステートメント
- 将来構想
- 中期目標・中期計画・年度計画
- 戦略プラン
- サービス水準についてのステートメント

17

取り込むか、取り込まれるか

- 学術情報部
- 守備範囲の拡大・文化の違い
- ポジションの取り合い
- 新しい業務・サービス
- 専門性・アウトソーシング, 外注

18

視野狭窄にならないポジション

- 事務局の組織
- 附属図書館の事務部
- 大学の方向性が見えるか
- 変化の早さについていけるか
- ステークホルダーによる評価

19

大学の目的を支援する最適な形態の追求

- 大学の目的の変化に対応できる柔軟な組織
- マネジメントの問題
- 年齢構成と処遇
- 階層構造とフラット化
- グループ化のゆくえ

20

学術情報基盤という位置づけ

- 研究とのかかわりあいの強調
- 研究サービスとは何か
- 抜け落ちる部分はないか
- 教育
- 社会貢献

21

図書館職員として

- 管理職であっても図書館職員 (old fashioned?)
 - 知識やスキルの習得 (維持) に労力, 時間, 経費をかける
- 情報発信
 - 図書館職員への情報提供
- 自己研鑽
 - 世界の状況を知る
- 社会貢献
 - 能力・知識の提供

22

情報発信

- 英語文献の翻訳
 - 月に1,2本, 長短ばらばら, 80人にメール送付
 - 英語を読むのは大変, 日本語なら読める
- 雑誌記事の執筆
 - 広い読者層を持つメディアに
 - [「情報管理」](#)「カレントアウェアネス」
- 講演
 - 声がかかるとは
 - [「Library Connect Seminar」](#)

23

翻訳リスト(2008)

- 定期刊行物価格調査2008: 公開を受け入れる (Lee C. Van Orsdel; Kathleen Born)
- SERU: 使用許諾の前進 (Carol Tenopir)
- 社会学: 雑誌がオンライン化すればするほど引用文献の範囲が狭くなるのが調査によってわかった (Jennifer Couzin)
- 米国大学図書館: 今日のラーニング・コモンズモデル (スーザン・マクマラン)
- 英国図書館: 文献供給の様相の変化 (Max Pfleger)
- 情報コモンズを学習に結び付ける (ジョーン・K. リビンコット)
- 英国研究コレクションへのアクセス支援: UK研究リザーブ・プロジェクト (Nicola Wright and Jean Crawford)

24

自己研鑽

- 図書
 - 図書館関係の洋書を毎月1冊程度購入
- 雑誌
 - 大学図書館・学術情報関連の外国雑誌を5タイトル購読
 - Against the Grain, College and Research Research Libraries, Library Trends, Portal: Libraries and Academy, Scholarly Communications Research*
- 所属学協会の講演会等への参加

25

購入洋書

- Desk and Beyond: Next Generation Reference Services, ALA.
- Digital consumers: Reshaping the Information Profession, Facet Publishing.
- Electronic Resources Management in Libraries: Research and Practice, Information Science Reference.
- Emerging Technologies for Academic Libraries in the Digital Age, Chandos Publishing.
- The Impact of Electronic Publishing: The Future for Publishers and Librarians, K.G. Saur.
- Information Literacy Education: A Process Approach, Chandos Publishing.
- Learning Commons: Evolution and Collaborative Essentials, Chandos Publishing.
- Library Project Funding: A Guide to Planning and Writing Proposals, Chandos Publishing.
- Metadata for Digital Resources: Implementation, Systems Design and Interoperability, Chandos Publishing.
- Scholarly Communication in China, Hong Kong, Japan, Korea and Taiwan, Chandos Publishing.

26

社会貢献

- 国立情報学研究所 図書館連携作業部会委員(次世代目録WG)
- [REFORM2: 電子情報環境下において大学の教育研究を革新する大学図書館機能の研究](#) 研究協力者
- オープンアクセス、サイバースカラシップ下での学術コミュニケーションの総合的研究 研究協力者
- 所属学会の刊行誌投稿論文の査読
 - 自分が試される

27

所属学協会

- 日本図書館情報学会
- 三田図書館・情報学会
- 情報知識学会
- 情報メディア学会
- 情報科学技術協会
- [国際音楽資料情報学会\(IAML\)](#)
- 日本出版学会

28